

あなたが思い浮かべた、  
特定の患者○○さんとのコミュニケーションについておたずねします。

下の①～⑱のすべてについて、  
最もあてはまると思う右の数字に○印をつけてください。

1 まったくない  
2 あまりない  
3 どちらともいえない  
4 よくある  
5 とてもよくある

① 患者に、説明する。	1	2	3	4	5
② 患者に、指示する。	1	2	3	4	5
③ 患者の感情を、確認する。	1	2	3	4	5
④ 患者の話しの要点を、確認する。	1	2	3	4	5
⑤ 患者が言いたいと思っていることを、確認する。	1	2	3	4	5
⑥ 患者を、安心させる、または励ます、または勇気づける。	1	2	3	4	5
⑦ 患者に、「はい」や「いいえ」などの形式で答えてもらう質問をする。	1	2	3	4	5
⑧ 患者に、自由な内容の形式で答えてもらう質問をする。	1	2	3	4	5
⑨ 患者の返答に対し、さらに深く確認したいことを質問する。	1	2	3	4	5
⑩ 患者の考えや質問に対し、あなたを「主語」にした意見を返す。	1	2	3	4	5
⑪ 患者が抱いている「夢」や「望み」に関する話を聴く。	1	2	3	4	5
⑫ 患者の「支えとなる人」や「支えになっていること」に関する話を聴く。	1	2	3	4	5
⑬ 患者の周囲に対する「好意的な解釈」や「感謝の気持ち」に関する話を聴く。	1	2	3	4	5
⑭ 患者の「長所」や「プラス面」「強み」に関する話を聴く。	1	2	3	4	5
⑮ 患者の「肯定的な人生観」や「運命や試練の受け容れ」に関する話を聴く。	1	2	3	4	5
⑯ 患者の言葉を、黙って待つ。	1	2	3	4	5
⑰ 患者への身体的表現(視線、表情、身振り、手振りなど)に気を配りながら会話する。	1	2	3	4	5
⑱ 患者の表情(感情状態)に合わせて、あなたの表情(声の調子)を変える。	1	2	3	4	5

#### 援助的コミュニケーションスキル(Therapeutic Communication Skills:TCSS)とは

「患者の内的成長を促進させる言語的・非言語的コミュニケーションのスキル(技能)」をいう。  
援助的コミュニケーション測定尺度(TCSS)の項目点を合算することで各スキル得点と総合得点を求めることができる。  
TCSSの総合得点が高いほど、援助的コミュニケーションスキルが高いことを示す。

<TCSSを構成する4つのスキル>

【心理的スキル】項目①～⑤は「患者に説明や確認等を刺激として与えることで言動反応を引き出すスキル」

【差別的スキル】項目⑥～⑩は「心理的スキルや神氣的スキルを補助または円滑にするスキル」

【神氣的スキル】項目⑪～⑮は「患者に望みや支え等を主体的に語らせポジティブな話題を聴き出すスキル」

【非言語的スキル】項目⑯～⑱は「患者に対し言葉以外の方法を用いて言語表出を促すスキル」

#### TCSS掲載誌

『看護師の基礎的コミュニケーションスキルと援助的コミュニケーションスキルの関連性』

杉山由香里, 比嘉勇人: 日本精神保健看護学会誌, 28(1), 12-20, 2019.

『精神看護学における「精」「神」論考: 心理性(メンタリティ)と神氣性(私的スピリチュアリティ)』

比嘉勇人: 富山大学看護学会誌, 16(2), 97-106, 2017.

※TCSSは、比嘉(2014)によってまず11項目版が作成され、最終的に杉山ら(2019)によって18項目版に改訂された。  
TCSSの信頼性と妥当性については、18項目版への改訂過程において確認されている。

※【神氣的スキル】の5項目(⑪=望み探求, ⑫=支え探求, ⑬=好感探求, ⑭=前向探求, ⑮=楽観探求)は、  
SRS-Bの5項目(①望み数, ②支え数, ③対他評価, ④対自評価, ⑤病観)に対応している。

表 1. 援助的コミュニケーションにおける心理的スキルと心理的ケア

心理的スキル	「発話例」：受けて応じる言動への介入	心理的ケア
説明	「～とは～です」 「～について～ということです」 ：（主に健康に関する内容について）相手に説明する	知識獲得を促す 〈記憶〉 〈習得〉 へのケア
指示	「～をしてください」 「～はしないでください」 ：（主に健康に関する内容について）相手に指示する	行動変容を促す 〈感覚〉 〈注意集中〉 へのケア
共感的確認	「それはとても～でしたね」 「もしかしたら～のように感じていますか」 ：相手の感情（気持）を確認する	感情表出を促す 〈情動〉 〈気分〉 へのケア
要約の確認	「要するに～ということですね」 「まとめると～でよろしいですね」 ：相手の話しを要約し確認する	思考整理を促す 〈感覚〉 〈意思決定〉 へのケア
明確化確認	「つまり～ですか」 「おっしゃりたいことは～ということですか」 ：相手が言いたいと思っていることを確認する	言語表出を促す 〈感覚〉 〈意思決定〉 へのケア

※心理的ケアとは、限定的なメンタルケアを指し、指示的・介入的な関わりを特徴とする。

表2. 援助的コミュニケーションにおける神氣的スキルと神氣的ケア

神氣的スキル	「発問例」：自ら発する言行への希求	神氣的ケア
望み探求	「何よりも一番したいことは…？」 ：抱いている「夢」や「願い」に関する話しを傾聴する	“望み”について「無；少ない」から「有；多い」への転換を期待する 〈意欲〉へのケア
支え探求	「一番の支えになるものは…？」 ：「支えとなる人」や「支えになっていること」に関する話しを傾聴する	“支え”について「無；少ない」から「有；多い」への転換を期待する 〈深心〉へのケア
好感探求	「周囲に対して強く感じていることは…？」 ：周囲に対する「好意的な解釈」や「感謝の気持」に関する話しを傾聴する	“対他評価”について「嫌；批判」から「好；感謝」への転換を期待する 〈意味感〉へのケア
前向探求	「自分のこれからは…？」 ：相手の「長所」や「プラス面」または「強み」に関する話しを傾聴する	“対自評価”について「暗；挫折」から「明；建設」への転換を期待する 〈自覚〉へのケア
楽観探求	「病（病気または疾患）というものは…？」 ：「肯定的な人生観」や「運命や試練の受け容れ」に関する話しを傾聴する	“病観”について「悲；拒否」から「楽；受容」への転換を期待する 〈価値観〉へのケア

※神氣的ケア（私的スピリチュアルケア）とは、限定的なスピリチュアルケアを指し、非指示的・希求的な関わりを特徴とする。

まず、  
以下①～⑤の句(…)に続けて、  
あなたがいま感じていることや、頭に浮かんだことを記述してください。

次に、  
あなたが記述した①～⑤の句(…)の「回答」に対する自己評価  
(0ネガティブな回答, 1どちらともいえない, 2ポジティブな回答)を考え、  
最もよくあてはまると思う番号に○をつけてください。

0 ネガティブな回答 (または無回答)	1 どちらともいえない	2 ポジティブな回答
---------------------------	----------------	---------------

①何よりも一番したいことは…

0	1	2
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

②一番の支えになるものは…

0	1	2
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

③周囲に対して強く感じていることは…

0	1	2
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

④自分のこれからは…

0	1	2
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

⑤病(病気または疾病)というものは…

0	1	2
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

<スピリチュアリティの定義付け> 2019.08.20

**【概念的定義】**スピリチュアリティとは「自分自身および自分以外との非物質的な結びつきを志向する内発的つながり性」をいい、「**神気性**」(personal spirituality)と表記する。(比嘉, 2017)

**【操作的定義】**「**神気性**」(personal spirituality)は「何かを求めそれに関係しようとするところのモチようであり(意気), 自分自身やある事柄に対する感じまたは思い(観念)」を数値化/文字化する**神気性評定尺度**(Spirituality Rating Scale: SRS-AB)によって評定できる。(比嘉, 2008)

SRS-Aは、スピリチュアリティの高低を評価できる15項目5件法の尺度である。

5因子(意欲1~3, 深心4~6, 意味感7~9, 自覚10~12, 価値観13~15)から構成され、その合計得点が高いほど私的なスピリチュアリティ(personal spirituality)が高いことを示す。

サンプルサイズが小さい場合は、2因子(意気1~6=意欲+深心, 観念7~15=意味感+自覚+価値観)の各得点または15項目の合計得点を統計処理(推定・検定)する。

SRS-Bは、SRS-Aを質的側面から補完する5項目文章完成法の尺度である(他者評価法も可)。

5項目(①=望み数, ②=支え数, ③=対他評価, ④=対自評価, ⑤=病観)はSRS-Aの5因子に対応している。

各項目に対して自由度の高い回答内容を許容するため、量的/質的な内容分析に有用である。

サンプルサイズが大きい場合は、5項目の合計評点の統計処理(推定・検定)が可能である。

半構成的面接(インタビューガイド)の導入部に用いて、回答内容を追究することも可能である。

<SRS-AとSRS-Bの関連性(信頼性・妥当性)>

自己評価法におけるパス係数=0.71(浜多他, 2017)

他者評価法における相関係数=0.56(比嘉他, 2005)

★SRS-AB掲載誌『神気性(スピリチュアリティ)とは』比嘉勇人:看護診断13(1), 78-83, 2008.